

地域課題の解決に向けた取組

積極的なエゾシカ対策

空知森林管理署

写真：自動撮影カメラに写ったエゾシカ

I 積極的な取組

空知森林管理署では、署長以下、現場最前線の森林官に至るまで、こまめに市町村等に足を運び、話し合い、連携しながら、ひとつでも多くの地域課題が解決されるよう、職員一丸となって取り組んでいるところです。

近年、市町村から寄せられる声の中で最も深刻な課題は、「農林業被害を減少させるため、さらに積極的なエゾシカ被害対策を進めて欲しい」という要望です。

当署は、これまでも市町村による有害鳥獣駆除に協力するため、関係機関や関係業界が行っているさまざまな捕獲手法の開発や取り組みの情報を集め、検討を重ねてきました。

II 新たな挑戦

このような状況を踏まえ昨年、「森林鳥獣被害対策技術高度化実証事業」（以下実証事業という）を夕張市内の国有林で始めました。この事業は、エゾシカの生息動向の把握や捕獲の時期、手法などに関する技術的な検討を通じて

費用対効果が高く効率の良いエゾシカ捕獲の方法を実証するとともに、地域で持続的にエゾシカ捕獲を実施する体制を構築することを目的としています。



小型囲いワナの設置

事業の実施に当たっては、事業着手前から、市町村、地元猟友会、森林管理局、森林管理署が協議会を設置し、事業実施に向けて何回も協議を行いました。当署からは、事前に自動撮影カメラで調査したデータを提供し、事業実施箇所の検討に役立てました。その結果、従前の実績よりも捕獲数が向上し、モバイルリンク（餌付けにより誘引されたエゾシカを車輛で移動しながら捕獲する手法）、小型囲いワナ等、複数の手法の組み合わせによる先駆的な捕獲の試みが有効であることが実証されました。また、

関係者が密に連携を図ることにより、誘引、除雪、捕獲、搬出のそれぞれの作業を効率よく実施する体制を構築することもできました。



協議会での検討

III 地域との連携

実証事業とは別に、署と地域が役割分担して行う「エゾシカ捕獲連携事業」を栗山国有林において初めて行いました。

これは、栗山町と協定を結び、当署において林道除雪、餌付けによる誘引を行う一方、栗山町が個体捕獲・処分を行うというもので、前述の実証事業で得られたノウハウを活かすことにより、効率的で実効性の高い捕獲手法を栗山町に提案することができました。

更に、事業完了後に有害鳥獣駆除のフィールドとして除雪した林道を解放したとこ

ろ、捕獲数が向上しました。これらの取り組みに対して、関係機関からは次のような評価をいただきました。

「本事業で実証された捕獲手法や動向把握調査などを参考に、目標とする捕獲計画頭数の達成に向け検討したい」（夕張市）

「林道除雪で奥山まで入林捕獲することができた。また、ハンターが限定され安全性が向上した。餌付けによる誘引は効果的だった」（栗山町）
「動向把握調査により捕獲に効果的な箇所や時間帯を把握することができた」（猟友会）

さらに、同市町の住民、特に農林業関係者の皆さんから感謝の声も寄せられました。

IV 今後に向けて

今年度は、上記二つの事業を引き続き行うとともに、新たに芦別市とも協定を締結し、エゾシカ捕獲連携事業を実施することとしています。

今後、さらにノウハウを蓄積し、エゾシカによる農林被害の減少化に貢献して参りたいと考えています。